

令和5年度 こども園（保育園）関係者評価

施設評価シート

子育てセンターとものもり

こども園（保育園）関係者評価委員会による評価

対象評価： 最終評価

評価日時： 令和6年 2月20日（火）14:30～15:30

【こども園（保育園）関係者評価委員会構成】

学識委員 1名 地域委員 1名 保護者委員 2名

【園の教育・保育目標】

自分のことが好き、友だちのことが好き
～周りの人とのつながりを大切に認め合い、伝え合える仲間づくり～

【本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した こども園（保育園）評価の具体的な目標や計画】

「今日もわくわく、きのうよりももっともっとおもしろくなる」
～やってみよう！そうしよう！つながる友だちの輪 広がる遊び～

子どもたちは、「明日の散歩は〇〇したいから〇〇に行きたい」「〇〇の続きを作りたい」「昨日の〇〇を使ってあそんでみたい」など、友だちと相談しながら、散歩で行きたい場所を考えたり、友だちと考えたアイデアを取り入れたりして、主体的に遊んでいます。
保育教諭は、子どもたちの気付きや発見に寄り添い、教育・保育計画と照らし合わせ活動を計画していきます。また、「昨日よりもっともっと今日は面白いよ」と毎日を楽しく過ごし、明日の活動に期待を持って登園できるよう活動を見直し、再構築して計画していきます。子どもたちの興味を持っていることが知的好奇心となり更に遊びが展開して、同年齢の友だちや異年齢の友だちとも一緒に遊びを楽しんでいるよう、文献で学んだことを生かして環境を整えていきます。

【評価基準について】

- 4・・・十分に達成されていた
- 3・・・ほぼ達成されていた
- 2・・・取り組みは見られるが達成が十分ではない
- 1・・・取り組みが不十分であった

項目	園評価	評価理由	最終評価	評価委員から
I. 目標の理解 1. グランドデザインを理解している 2. グランドデザインを意識している 3. 重点目標を意識している 4. 重点目標を意識して取り組んでいる	4	<ul style="list-style-type: none"> ・連続性を持って目標を立てることが出来ている。 ・重点目標に沿って、集会などで散歩の行先を友だちと意見を伝え合い、「ここに行ってみよう」「ここで〇〇したい」と期待を持って取り組めるようにした。 ・重点目標を意識しながらねらいを立てていくことが出来たことで、保育室や戸外での活動についても環境を意識し、整えたり保育活動を設定したりと意識をして取り組めた。 ・計画や保育を振り返り、職員間で共有する時間を確保しより理解を深めたい。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが夢中になっている姿から興味を表出した瞬間を、しっかりと保育者が捉えて環境を整えたことで遊びが広がっていったところが良かった。 ・重点目標を理解し、教育保育のテーマ（忍者活動）と繋げることが出来ていると思う。次年度以降もテーマを掲げると目標に沿い取り組みやすいと感じる。 ・テーマである忍者の活動を、5歳児から他年齢へと広げることが保育者の連携の力を感した。
II. 教育・保育の計画性と内容 1. 指導計画の作成 2. 環境への配慮 3. 教育・保育活動の実践 4. 計画と実践の評価・反省	4	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点での子どもの発達に対し具体的な手立てを探りながら、子どもたちの姿に合わせた活動や環境構成を話し合い、整えることが出来た。 ・栽培に対して好奇心が旺盛で、日々関わる環境を整えその時間を十分に確保できた。また、クッキングを通し味わう経験の機会も多く持つことが出来た。 ・子育て支援センターはなえみでの講座の振り返りを記録し次年度に活かす取り組みが出来た。 ・主体性を意識した計画の立案と実践を意識できている。反省事項の共有に努め、意見を多く出し合い計画の見直しや発達段階を多面的に捉えた環境の再構成をしていく。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の栽培と収穫、そして味わうことは家庭では難しい面がある為、有難く感じる。旬も抑えられていて良いと感じる。幼児期に必要な経験を園でできることが大切である。 ・無理のない計画を立てることが出来たことで、保育者が同じ思いで活動を進めていけたのではないかと感じる。 ・発達段階や配慮を要するお子さん、また場面に合わせた園々への対応など、見通しを持ち生活することが出来る環境づくりが見られた。 ・運動会という行事が、一つの単元や運動の要素を取り入れるだけのものではなく、1年間を通して「つながる保育」として構想されその一つの場面が運動会となっていた。主体的かつ意欲的に活動する姿があった。

<p>Ⅲ. 子どもにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. その子らしさが認められる 2. ゆったりとした生活 3. 自然に触れて心行くまで遊ぶ 4. いろいろな人の中で自分を知る 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの気持ちに寄り添える環境づくりを保育者間で声を掛け合って整えじっくり向き合うことが出来ている。 ・地域の自然を生かし四季を通じ気づきや発見を楽しめている。これまでの経験を生かした計画を立てる事が出来た。 ・異年齢の生活を通し、色々な人との関りの心地よさを感じている。コロナ禍が明け、地域の方々や施設との交流が増え自園の保育を知っていただく機会も増えた。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち一人ひとりの気持ちを大切に保育を行っていると感じる。 ・地域の自然を生かしながら式を通じ子どもたちが活動することが出来ている。 ・子どもたちは、興味関心を保育者に伝えることが出来、聞いてもらうことで楽しみに登園することが出来ている。 ・異年齢保育の中でしっかりと活動が確保されており、異年齢保育を通して育つ姿があることを1年通して感じ安心した。 ・配慮を要するお子さんも含め、子どもたちが見通しを持ち自己決定しながら安心して保育に参加している様子がよく分かった。 ・異年齢の日常的な交流は、適正な園の規模と共に意図的になされていくことで良いと感じる。
<p>Ⅳ. ファミリーにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 気軽に相談できる 2. いつでも保育に参加できる 3. 必要な情報が得られる 4. 保育を通して地域に親しむ 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が明け、保護者の方々から自園での生活や保育を実際を感じていただける機会が増えた。また、職員から声を掛けることを心掛けて子どもたちの成長を共有し安心して預けていただける環境づくりに努めた。 ・担任に限らず、関わった職員が保護者の方へ直接声を掛けやすい環境づくりにも努めた。 ・今後は保育教育の実践について、ブログや掲示など見て分かりやすいものでの発信力を強め、理解を深めていけるようにしていく。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で保育者との会話が減ったように思っていた。開けてから回復傾向にありコミュニケーションがしやすくなった。引き続き子どもの様子を送迎時などを利用して伝えていきたい。 ・担任に関わらず子どもの様子を共有し保護者に伝え、クラスを超えて全職員体制で子どもたちを育てていこうという姿勢がよく感じられた。 ・掲示やおたよりや日頃の口頭でのあらわれの説明で保護者が保育の様子が分かり理解を深めるとともに安心されている様子がよくわかりました。 ・園の活動ブログについては、更新を行っていただいていると思うが、更新時期が分りにくいため、お任せシステムにて毎日配信されるメールに記載をしていただきたい。
<p>Ⅴ. 地域にとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 誰でも親しく訪ねられる 2. 園の内容がよくわかる 3. 緊急の時頼りになる 4. 子育てに夢がもてるように 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・支援センターご利用の方へは、継続してご利用がいただけており、保育を見たり聞いたり園の保育を知っていただき入園につながるケースが増えた。 ・子育て支援センターご利用の方対象に園庭の開放を再開した。子どもたちが色々な方と関わる機会が増えたとともに、自園の保育を感じて頂ける機会となった。 ・積極的に地域に出掛けて行き、買い物やデイサービス、幼稚園、小学校と交流など計画をし実践することが出来た。 ・上屋敷地区と連携し、毎年災害時の連携について顔合わせや話し合いの場を設けている。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・上屋敷公会堂、上屋敷デイサービス、さつまいも畑の提供と栽培の指導、花育教室など、地域とのつながりが感じられる。 ・支援センターの活動を公会堂で開催する日が月に2回あり、活発な活動に感じられた。 ・地域と繋がることはとても大切で、何か起きた時に必ず問題解決に繋がる。子どもたちの安心、安全となる為つながりを大切にしていきたい。 ・交流の場を、様々な年齢に少し広げてみてほしいと感じる。活動内容によっては検討して頂けたらと思う。 ・区の三役も関わり、災害時の受け入れが具体的にイメージでき有難く感じた。 ・地域の特色（自然・人・物）を活かし、保育者が積極的に働きかけていく様子が伝わる。
<p>Ⅵ. スタッフにとっては</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 個性が生かされる 2. 快適な職場づくり 3. 生活や遊びの文化が伝えられる 4. 視野を広げて自ら学ぶ 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個々に得意な分野を活かし苦手分野については助け合い、子どもたちの活動が充実できる環境づくりに努めている。今後は、自ら学ぶ面白さを感じながら保育者として主体性を持ち学びを深めていく。 ・安全面に配慮する意識を強め複数での確認を行っている。お子様、保護者、職員にとって安心と安全を提供できるよう連携し今後も努める。また、報告、連絡、相談の意識を高め、職員間で共有する時間をしっかり確保し、お互いの考えを伝え合い気持ちの良い職場環境を整えていく。 ・気持ちの良い生活環境づくりに努め、整理整頓、日用品の補充、破損したものの整備など身の回りの共有物を大切にする姿勢を子どもたちの手本となり見せていく。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・園内掲示に季節感があり職員の得意分野が生かされていると感じた。 ・リズム発表会を通して、職員の方も本気で体を動かしている姿を見せていただき、普段の取り組みの積み重ねが伝わってきた。 ・職員の方々の保育に対する伸びしろが多くあると感じている。様々な要望や意見をむバランスよく取り入れて、いい職場環境づくりに努めて行ってほしい。 ・少子化に伴い園の魅力を増やし、発信し、選ばれる園になって行ってほしい。 ・様々なご意見があることは、保育の内容や保育者の姿勢が向上していくと思う。プラス思考で受け止め、引き続き園の運営して行ってほしい。